

令和5年度 授業改善のポイント

- (1) 年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項（資質・能力）から授業を構想する。
- (2) 資質・能力を身に付けた児童生徒の具体的な姿をイメージした上で、授業における学習活動や指導の手立て、支援等を構想する。
- (3) 資質・能力を育成するための効果的な言語活動を構想する。
- (4) 一人一人の資質・能力の獲得の状況を見取るために、児童生徒が個で取り組む作文等の活動を授業の中に位置付ける。

確かな評価計画に基づいた授業構想の在り方

【指導事例】

1 指導と評価に生かせる評価規準・評価方法を構想する。

指導計画上の留意点

【指導事項】 ※ は、取り上げた部分  
場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)イ

ポイント(1) 年間指導計画を基に、本単元で育成を目指す資質・能力の内容を確認し、授業構想の出発点にします。

【単元の目標】  
場面の展開や心情の変化について、描写を基に捉えることができる。

ポイント(1) 指導事項の一部を用いて作成することもあります。ただし、取り上げなかった内容は別の単元等で必ず取り上げます。

【評価規準・評価方法等】  
場面における二つ以上の心情に触れながら、その変化について本文中の描写を根拠に解釈して説明しているかを確認する。（ノート）

ポイント(2) ねらいを達成している生徒一人一人の姿（＝「おおむね満足できる」状況（B））を授業者が具体的に想定します。

2 言語活動を通して資質・能力の育成を目指す。

【教材】「少年の日の思い出」（中学校第1学年）

【言語活動】物語の各場面を読み、主人公の心情の変化を想像して伝え合う活動

考えの基となる描写

学び合いの姿の対話例

支援する際の留意点

胸をドキドキさせながら、僕は紙切れを取りのけたという誘惑に負けて、留め針を抜いた。



「誘惑に負けて」から、悪いことをしているという自覚があるのが分かります。



心情の変化を説明すべきところだが、気付く生徒がいるかどうか、少し待ってみよう。もしいかなかったら「今の意見に対して何か気付いたことはないでしょうか」と揺さぶってみよう。

よい意見だと思います。でも、心情の変化だから、その次にどんな気持ちになったかも考えてみませんか。



ポイント(2) 変化を説明できていないからすぐに教師が助言するのではなく、生徒の反応を待ったり、生徒同士の対話的な学びを促したりするなど、状況を踏まえながら支援することが大切です。

すると、四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。



では、付け足します。次の「僕を見つめた」から、斑点がまるで生きていた感じが分かります。斑点から強力に誘われているような感じです。



ポイント(3) 描写を根拠に解釈して説明する資質・能力を、生徒が試行錯誤しながら活用しようとする場を設定し、学習の状況に応じて支援することで、資質・能力の獲得に向かえるようにします。

斑点の誘いが強力だったことがどの表現から分かるか説明できる人はいますか。



はい。「逆らいがたい欲望」とあるから、盗んではいけないと分かっていたけれど、我慢できないくらいの強い力だったということだと思います。

それを見ると、この宝を手に入れたという、逆らいがたい欲望を感じて、僕は、生まれて初めて盗みを犯した。



自分の考えをもう一度まとめてみよう。

ポイント(4) 一人一人の資質・能力の獲得を確実に見取るためには、話し合いで終わらずに、個で改めて取り組ませた作文等の評価資料を基にする必要があります。